

富山県鋳工業生産の動き

～平成28年(2016年)6月分・第Ⅱ四半期分～

総合指数

平成22年(2010年)=100、季節調整済

	28年6月	前月比 (%)	前年同月比 (%)
生産指数	100.5	0.8	0.2
在庫指数	125.1	▲2.1	▲4.4

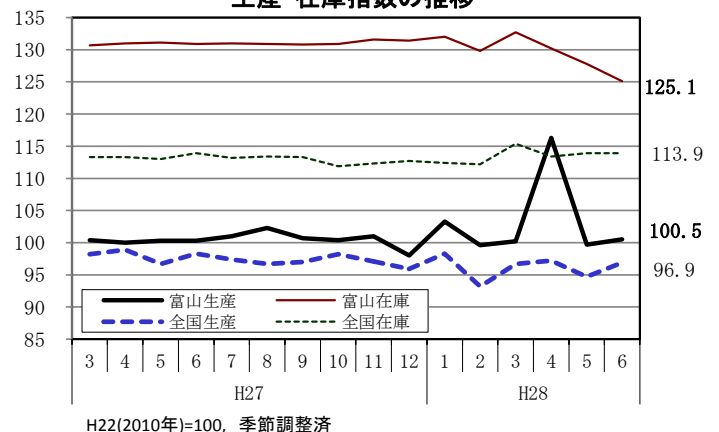
- 1 生産指数（季節調整済指数）は100.5と前月に比べ0.8%の上昇となり、2ヵ月ぶりに上昇した(図表)。これは13業種中、**金属製品工業、化学工業、非鉄金属工業**など6業種が上昇したことによる。なお、低下した業種は**鉄鋼業、繊維工業、輸送機械工業**など7業種である。業種別にみると、**金属製品工業**は**金属製建具**などの増加により同**9.7%の上昇**で107.5となり、**化学工業**は**医薬品**などの増加により同**2.8%の上昇**で177.3となった。他方、**鉄鋼業**は**鋳鍛鋼品類**などの減少により同**▲12.5%**で78.6となり、**繊維工業**は**化繊・紡績**などの減少により同**▲20.1%**で45.6となった。また、**前年同月比**（原指数）は**0.2%の上昇**となり、**4ヵ月連続で前年を上回った**。なお、13業種中、平成22年基準の指数**100**を上回っている業種は、**化学工業(177.3)、輸送機械工業(145.0)**などの**8業種**となっている。
- 2 在庫指数（季節調整済指数）は125.1と前月に比べ**▲2.1%**となり、**3ヵ月連続で低下**した(図表)。これは13業種中、**化学工業、電気機械工業**など**8業種**が低下したことによる。なお、**上昇**した業種は**窯業・土石製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業**など**5業種**である。また、**前年同月比**（原指数）は**▲4.4%**となり、**3ヵ月連続で前年を下回った**。

指数の動き

平成22年(2010年)=100、季節調整済指数

		富山県		全国		
		生産指数	在庫指数	生産指数	在庫指数	
平成27年	3月	100.4	130.7	98.2	113.3	
	4月	100.0	131.0	98.9	113.3	
	5月	100.3	131.1	96.7	113.0	
	6月	100.3	130.9	98.3	113.9	
	7月	101.0	131.0	97.4	113.2	
	8月	102.3	130.9	96.7	113.4	
	9月	100.7	130.8	97.0	113.3	
	10月	100.4	130.9	98.2	111.9	
	11月	101.0	131.6	97.1	112.3	
	12月	98.0	131.4	95.9	112.7	
	平成28年	1月	103.3	132.0	98.3	112.4
		2月	99.6	129.8	93.2	112.2
3月		100.2	132.7	96.7	115.4	
4月		116.3	130.2	97.2	113.4	
5月		99.7	127.8	94.7	113.9	
6月		100.5	125.1	96.9	113.9	

生産・在庫指数の推移



- 次回公表予定日：平成28年9月26日（月）
□ 「富山県鋳工業生産の動き」は、HP「とやま統計ワールド」でご覧になれます。

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

平成28年6月分 業種別の主な動向

※ ウェイトは10000分比で算出

※ 業種は寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載

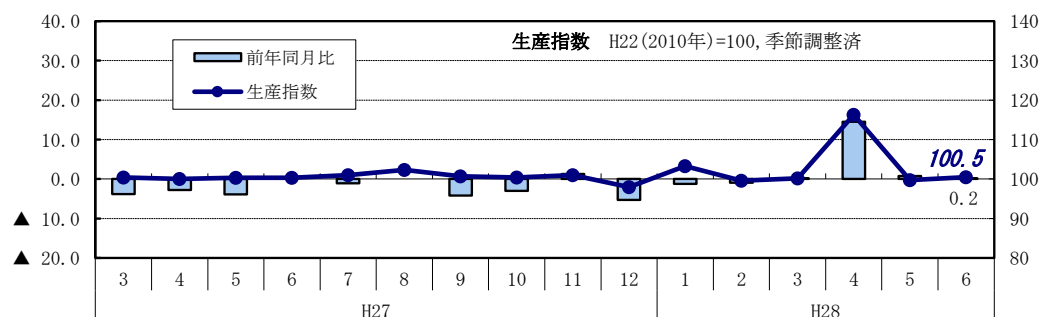
<生産>〔指数100.5(前月比 0.8%)〕

↑ 上昇した業種(6業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比(%)	寄与した主な品目	前年同月比(%)
金属製品工業	892.4	107.5	9.7	金属製建具など	2.7
化学工業	1495.7	177.3	2.8	医薬品など	8.9
非鉄金属工業	795.6	100.3	4.2	アルミニウム圧延製品など	0.5

↓ 低下した業種(7業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比(%)	寄与した主な品目	前年同月比(%)
鉄鋼業	369.9	78.6	▲12.5	鍛鋼品類など	▲12.7
繊維工業	268.7	45.6	▲20.1	化繊・紡績など	▲21.0
輸送機械工業	303.3	145.0	▲8.8		39.3



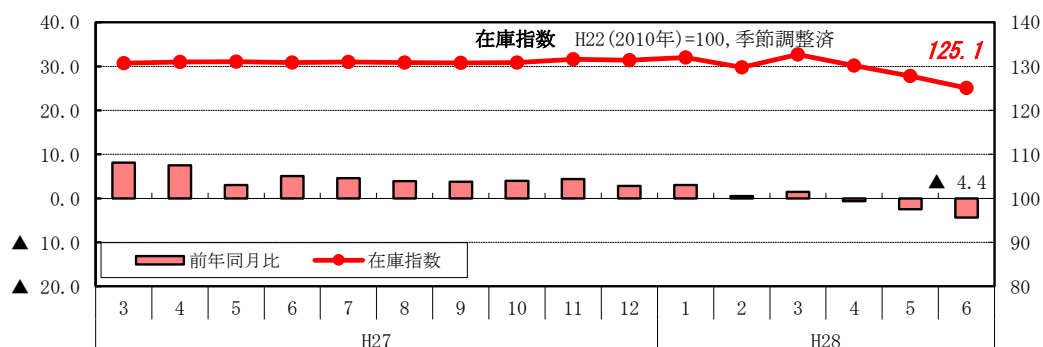
<在庫>〔指数125.1(前月比 ▲2.1%)〕

↓ 低下した業種(8業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比(%)	寄与した主な品目	前年同月比(%)
化学工業	2727.9	157.7	▲1.6	プラスチック樹脂など	▲5.5
電気機械工業	374.5	265.9	▲13.5		▲16.7
プラスチック製品工業	942.9	126.4	▲5.2		8.7

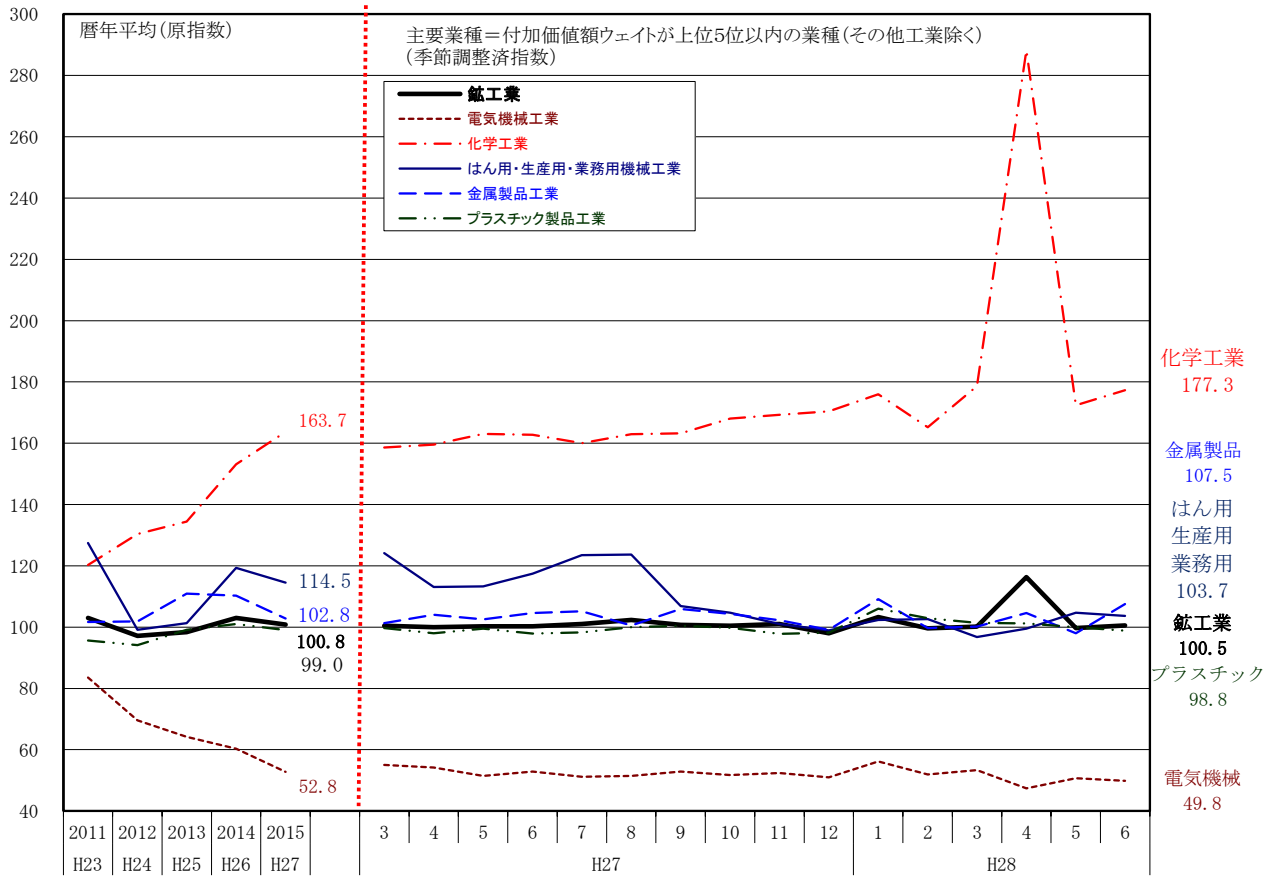
↑ 上昇した業種(5業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比(%)	寄与した主な品目	前年同月比(%)
窯業・土石製品工業	409.7	80.3	17.1		▲21.2
パルプ・紙・紙加工品工業	773.9	108.7	4.9		5.0
その他工業	158.3	108.1	8.1		2.3



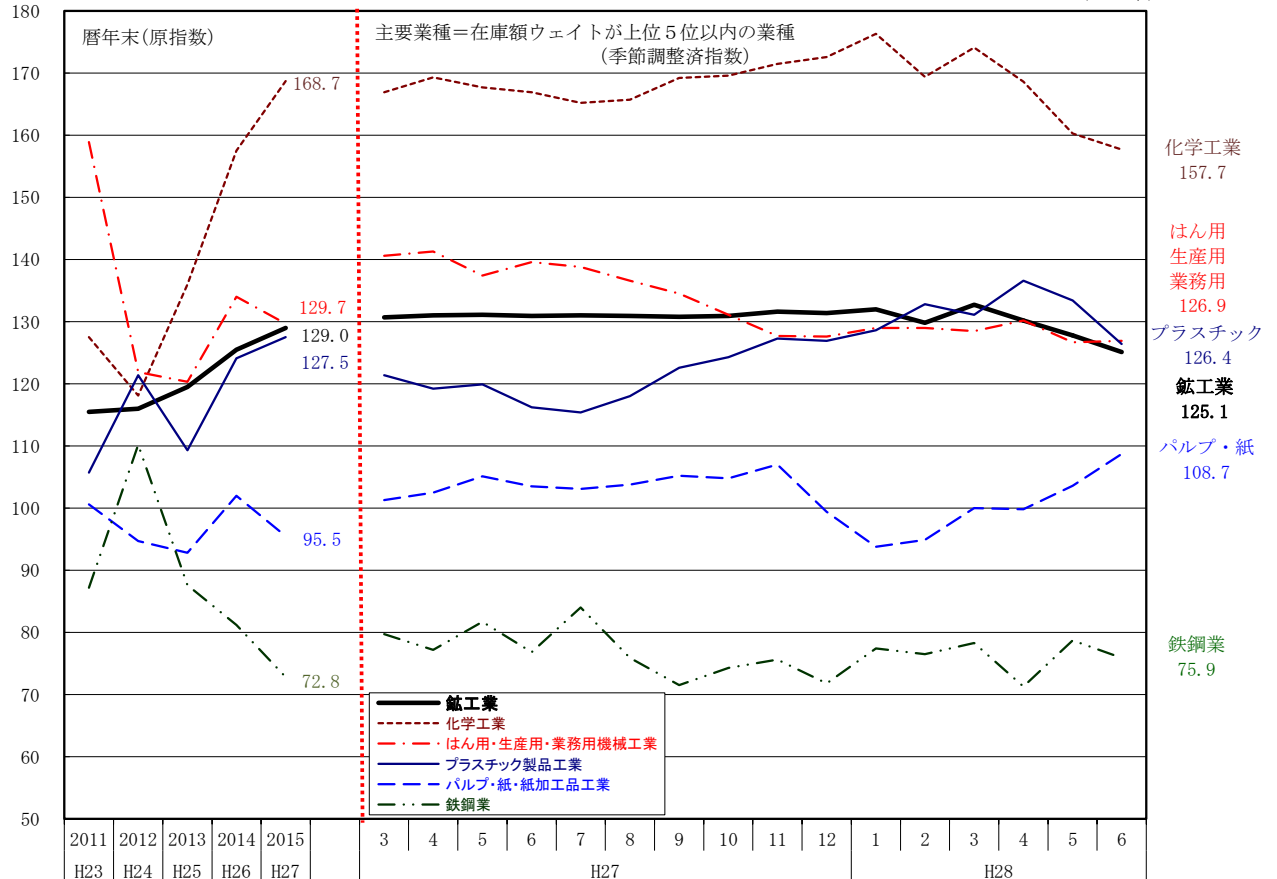
主要業種別生産指数の推移(富山県)

H22(2010年)=100



主要業種別在庫指数の推移(富山県)

H22(2010年)=100



～～ 平成28年(2016年)第Ⅱ四半期分 ～～

総合指数

平成22年(2010年)=100、季節調整済

	28年Ⅱ期	前期(末)比(%)	前年同期(末)比(%)
生産指数	105.5	4.5	5.2
在庫指数	125.1	▲5.7	▲4.4

1 生産指数 (季節調整済指数) は 105.5 と前期に比べ 4.5%の上昇となり、2期連続で上昇した(図表)。

これは13業種中、**化学工業、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業**など7業種が上昇したことによる。なお、**低下**した業種は、**繊維工業、電気機械工業、プラスチック製品工業**など6業種である。

業種別にみると、**化学工業**は**医薬品**などの増加により同**22.7%の上昇**で**212.6**となり、**輸送機械工業**は**自動車部品**などの増加により同**6.3%の上昇**で**150.0**となった。他方、**繊維工業**は**化繊・紡績**などの減少により同**▲33.7%**で**64.1**となり、**電気機械工業**は同**▲8.4%**で**49.3**となった。

なお、**前年同期比**(原指数)は**5.2%の上昇**となり、**6期ぶりに前年を上回った**。

2 在庫指数 (季節調整済指数) は 125.1 と前期末に比べ**▲5.7%**となり、**3期ぶりに低下**した(図表)。

これは13業種中、**化学工業、繊維工業**など7業種が**低下**したことによる。なお、**上昇**した業種は、**食品工業、金属製品工業**など6業種である。

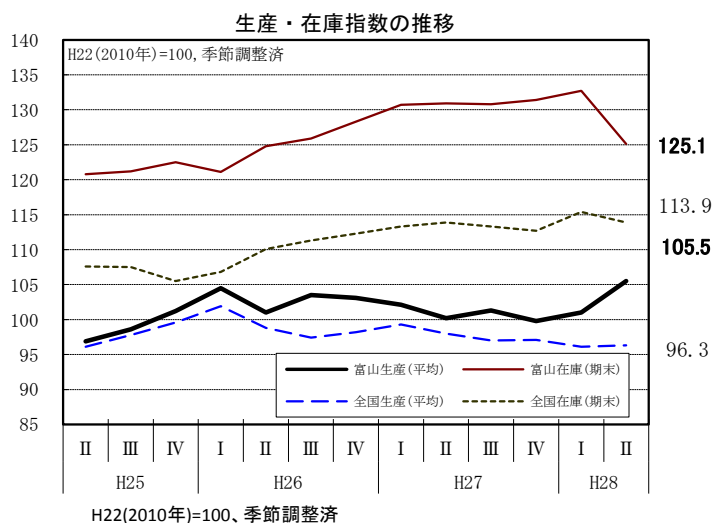
また、**前年同期末比**(原指数)は**▲4.4%**となり、**11期ぶりに前年を下回った**。

※ 上記の生産と在庫の推移は、「在庫循環図(P8)」を参照

指数の動き

平成22年(2010年)=100、季節調整済指数

	富山県		全国		
	生産指数	在庫指数	生産指数	在庫指数	
平成25年	Ⅱ期	96.9	120.8	96.1	107.6
	Ⅲ期	98.6	121.2	97.8	107.5
	Ⅳ期	101.2	122.5	99.6	105.5
平成26年	Ⅰ期	104.5	121.1	101.9	106.8
	Ⅱ期	101.0	124.8	98.8	110.1
	Ⅲ期	103.5	125.9	97.4	111.3
平成27年	Ⅳ期	103.1	128.3	98.2	112.3
	Ⅰ期	102.1	130.7	99.3	113.3
	Ⅱ期	100.2	130.9	98.0	113.9
平成28年	Ⅲ期	101.3	130.8	97.0	113.3
	Ⅳ期	99.8	131.4	97.1	112.7
	Ⅰ期	101.0	132.7	96.1	115.4
	Ⅱ期	105.5	125.1	96.3	113.9



平成28年第Ⅱ四半期分 業種別の主な動向

※ ウェイトは10000分比で算出

※ 業種は寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載

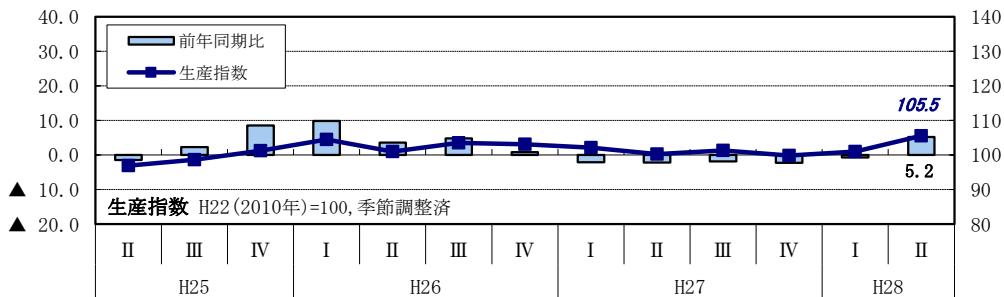
〈生産〉〔指数 105.5 (前期比 4.5%)〕

↑ 上昇した業種(7業種)

主な業種	ウェイト	指数	前期比 (%)	寄与した主な品目	前年同期比 (%)
化学工業	1495.7	212.6	22.7	医薬品など	31.1
輸送機械工業	303.3	150.0	6.3	自動車部品など	30.7
はん用・生産用・業務用機械工業	1347.1	102.6	2.0		▲10.5

↓ 低下した業種(6業種)

主な業種	ウェイト	指数	前期比 (%)	寄与した主な品目	前年同期比 (%)
繊維工業	268.7	64.1	▲33.7	化繊・紡績など	▲23.4
電気機械工業	2247.2	49.3	▲8.4		▲6.7
プラスチック製品工業	826.0	100.0	▲3.3		1.6



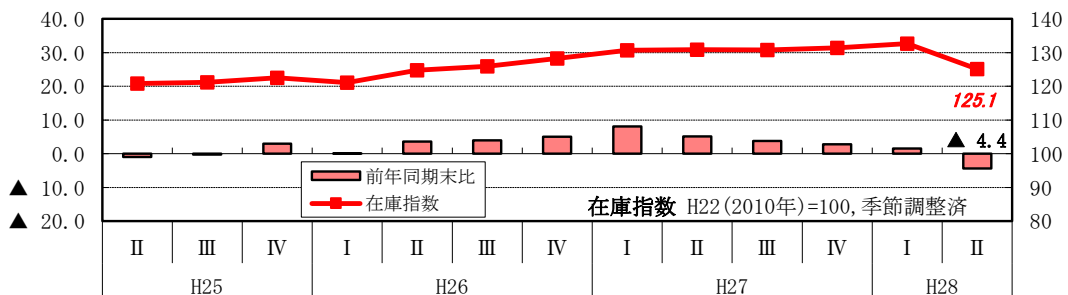
〈在庫〉〔指数 125.1 (前期末比 ▲5.7%)〕

↓ 低下した業種(7業種)

主な業種	ウェイト	指数	前期末比 (%)	寄与した主な品目	前年同期末比 (%)
化学工業	2727.9	157.7	▲9.4	医薬品など	▲5.5
繊維工業	389.0	91.9	▲19.5	化繊・紡績など	▲4.0
電気機械工業	374.5	265.9	▲18.1		▲16.7

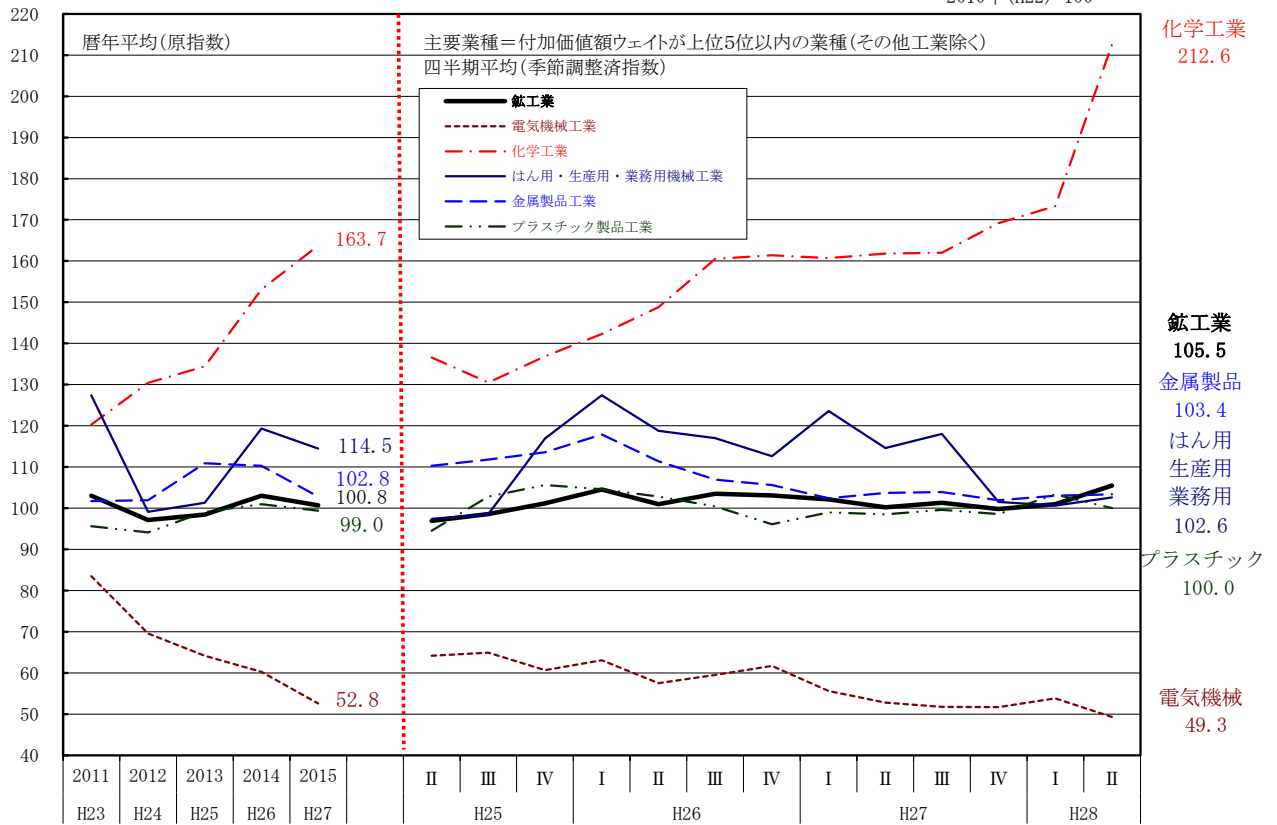
↑ 上昇した業種(6業種)

主な業種	ウェイト	指数	前期末比 (%)	寄与した主な品目	前年同期末比 (%)
食料品工業	649.2	83.2	6.3	飲料など	2.3
金属製品工業	638.1	94.0	5.4	金属製建具など	10.4
パルプ・紙・紙加工品工業	773.9	108.7	8.7		5.0



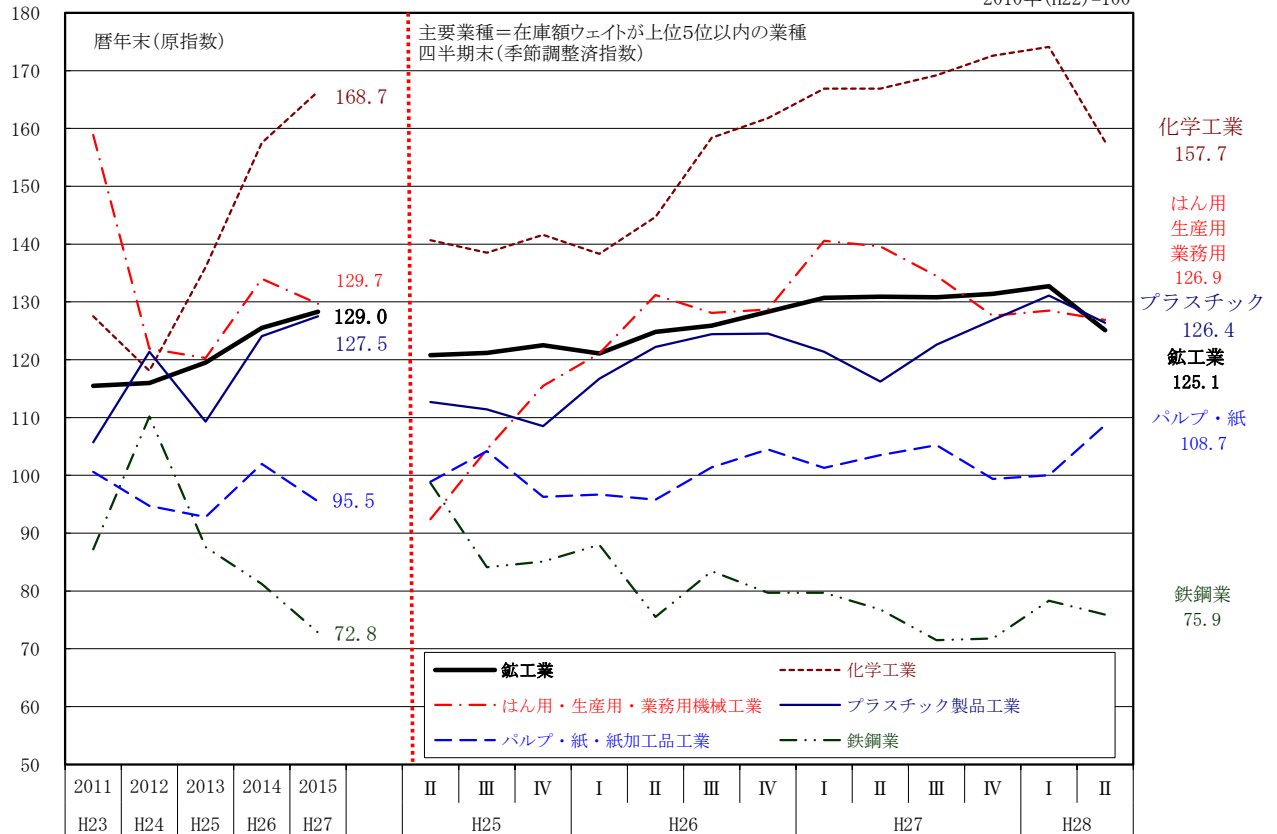
主要業種別生産指数の推移（富山県）

2010年(H22)=100



主要業種別在庫指数の推移（富山県）

2010年(H22)=100



＜在庫循環の最近の傾向＞（8ページ参照）

富山県の在庫循環図をみると、平成24年Ⅰ、Ⅱ期は「在庫積み上がり局面」に位置し、平成24年Ⅲ、Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。平成25年Ⅰ、Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目付近に位置し、平成25年Ⅲ期～平成26年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成26年Ⅱ、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置し、平成26年Ⅳ期～平成27年Ⅲ期は、「在庫積み上がり局面」へ移動した。平成27年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置し、平成28年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。今回の平成28年Ⅱ期では生産が前年同期比5.2%増、在庫が前年同期末比▲4.4%となり、「在庫積み増し局面」へ移動した。

また、全国の在庫循環図をみると、平成24年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」に位置し、平成24年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成24年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、平成24年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置し、平成25年Ⅰ期は「在庫調整局面」へ移動した。平成25年Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目付近に位置し、平成25年Ⅲ期は「在庫減少局面」に移動した。平成25年Ⅳ期、平成26年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、平成26年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置している。平成26年Ⅲ期～平成27年Ⅲ期は、「在庫積み上がり局面」へ移動し、平成27年Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。平成28年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置している。今回の平成28年Ⅱ期では、生産が前年同期比▲1.8%、在庫が前年同期末比0.0%となり、「在庫調整局面」へ移動した。

【在庫循環図について】

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起り、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月（3～4年）の循環を示すことが多く、「キッチン波」（キッチン(Kitchin)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

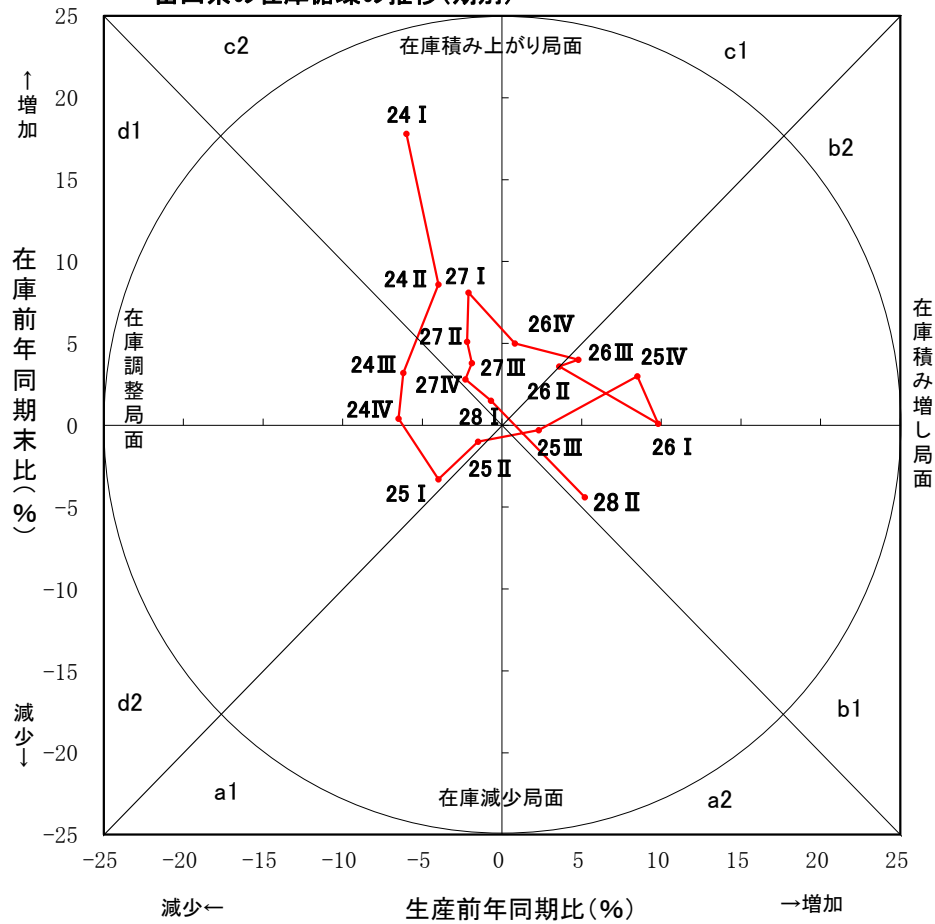
「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

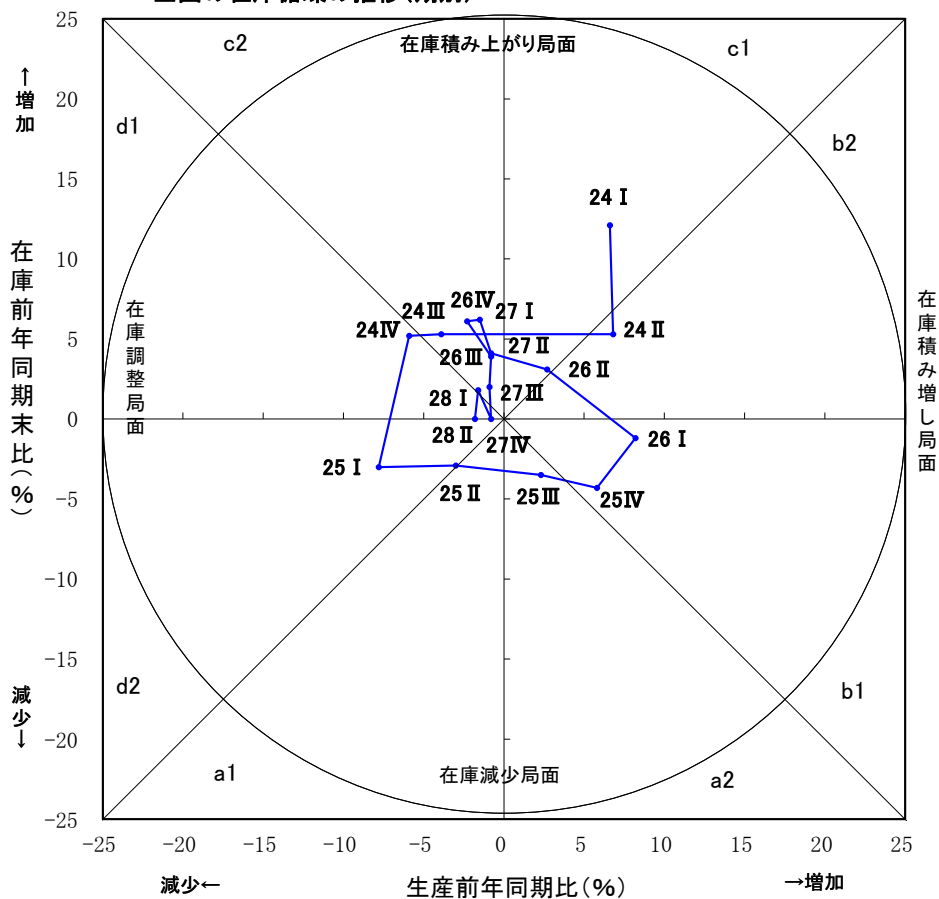
「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。

富山県の在庫循環の推移(期別)



全国の在庫循環の推移(期別)



鉱工業指数利用者のために（利用上の注意）

1 作成目的

鉱工業の生産及び在庫状況を数量的に調査し、富山県における鉱工業の動向を総合的に把握することを目的とする。鉱工業指数とは、一定地域内における月々の鉱工業生産量及び在庫量を、ある一定時期を基準にして指数化したものである。

2 基準時及びウェイト算定年次

指数の基準時は平成22年(2010年)である。したがって、指数値は平成22年の平均を100.0とした比率で示されている。また、ウェイトも平成22年の産業構造により作成されている。平成22年基準は、平成25年11月25日に公表し、同年9月分指数から適用するとともに、平成20年(2008年)まで遡及計算を行っている。

3 分類

分類は、日本標準産業中分類(若干の組み替えを行っている)に準拠した「業種分類」と、品目の経済的用途に着目した「特殊分類(財別)」の2つの分類による。

4 指数の種類及び採用品目数

	採用品目数				ウェイト 算定基準
	計	製造工業	鉱業	電力・ガス事業	
生産指数	189	187	0	2	付加価値額
生産者製品在庫指数	117	116	0	1	在庫額

- ・生産指数(付加価値額ウェイト)⇒生産活動の生産水準の動き
- ・生産者製品在庫指数⇒生産製品が出荷されずに生産者段階に残っている在庫の動き
- ※ 受注生産等で在庫を把握する必要がないものや、在庫の把握が極めて困難で数値が得られない品目があるため、生産者製品在庫指数の採用品目数は、生産指数より少ない。特殊分類は、財用途が2財にわたる(1品目)ものはウェイトを分割して各財毎に集計しているため、業種分類と特殊分類では採用品目数が一致していない。
- また、採用単位は、製品数量単位及び製品固有単位を基本としている。

5 総合指数の算式

総合指数の算式は、品目別指数を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均法(ラスパイレス算式)による。具体的には次のとおり。

$$I_t = \frac{\sum P_{i0} Q_{it}}{\sum P_{i0} Q_{i0}} = \sum \frac{P_{i0} Q_{i0}}{\sum P_{i0} Q_{i0}} \times \left[\frac{Q_{it}}{Q_{i0}} \right] = \sum \frac{W_{i0}}{\sum W_{i0}} \times \left[\frac{Q_{it}}{Q_{i0}} \right]$$

I_t …t時点の総合指数

P_{i0} …品目別平成22年平均単価(生産指数は品目別平成22年平均付加価値単価)

Q_{i0} …品目別平成22年1ヶ月平均数量(基準数量)

Q_{it} …品目別比較時数量

W_{i0} …品目別平成22年ウェイト(ウェイトは鉱工業に対する万分比)

6 季節調整方法

センサス局法(X-12-ARIMA)を採用

季節調整済指数=原指数÷(季節・曜日・祝祭日・うるう年指数)

※ 在庫指数の場合、()内は季節指数のみ。

※ 平成28年1月以降の季節指数は、平成27年の季節指数を適用している。

7 その他

本書記載の数値を転載するときは、「富山県鉱工業生産の動き」による旨を明記してください。

この月報の前月公表値が修正報告により若干変更されている場合があります。

内容についてのお問い合わせは、下記あてにお願いします。

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
富山県 経営管理部 統計調査課 商工係
Tel:076-444-3193(直通)

社会生活基本調査
調査実施日 10月20日